

わが校の取り組み・私の工夫

第23回

—校内の学力に応じた指導 編—

このシリーズでは、主に高等学校の取り組みや、個々の先生方の実践事例を紹介する。今回のテーマは「校内の学力に応じた指導」。京都府立鳥羽高校では、徹底した生徒指導をベースとした学習指導から、推薦・AO入試も積極的に活用して生徒の進路実現に向けて取り組んでいる。徳島県立城東高校では、課外授業「城東ゼミ」や定期考査前の学習相談会「Success週間」などで、幅広い生徒の志望に対応できるよう取り組んでいる。以上の2校の取り組みを紹介する。

Contents

◇学校事例	京都府立鳥羽高等学校	P19
	徳島県立城東高等学校	P22



学校事例

京都府立鳥羽高等学校

徹底した生徒指導から受験指導へスムーズに移行し
国公立大学合格者数の大幅増を実現

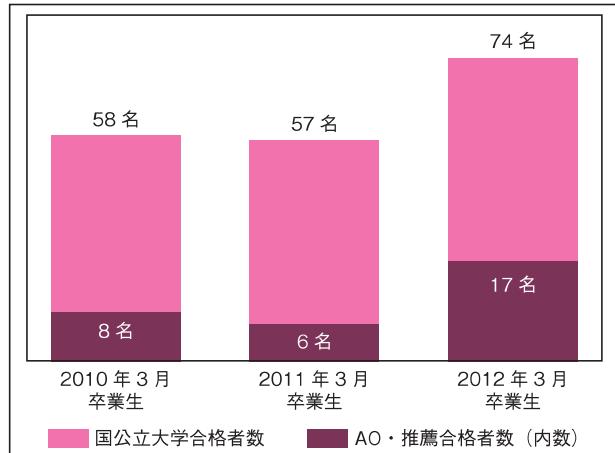
京都府立鳥羽高等学校（校長 須原洋次）は、京都市内南部、弘法大師空海ゆかりの教王護国寺（東寺）の五重塔が見える場所に位置し、旧制京都第二中学校の歴史を継承する高校として歴史と伝統を育んできた公立高校だ。

同校では昨年度、国公立大学合格者数を前年度比130%と伸ばした。ここ数年ほぼ同数で推移していた合格者数が大きく増加した背景には、成績中位層を中心に実施した取り組みが大きく関係しているという。1年間で大きく合格者数を増やした同校の取り組みについて副校長の高田真理子先生、進路指導部部長の松林正嗣先生（数学科）、進路指導部特進部長の曾根りか先生（英語科）に伺った。

推薦・AO入試に着目し、生徒の合格可能性を広げる

鳥羽高等学校の国公立大学現役合格者数は、2010年3月で58名（内推薦・AO入試合格者8名）、2011年3月で57名（同6名）と、ここ数年、ほぼ横ばいの状況であったが2012年3月では74名（同17名）と、17名増加した＜図表1＞。中でも、推薦・AO入試での合格者数は前年よりも11名増え、国公立大学合格者の増

＜図表1＞国公立大学合格者数推移



加に大きく貢献している。

推薦・AO入試を重視するに至ったきっかけの一つは、2011年に行った他校視察である。特進部（2010年に進路指導部内に設置。発足時は3名で、現在は英語科・数学科・国語科より各2名、6名によるチーム）が訪れた高知県の県立高校では、100名近くの生徒が推薦・AO入試に出願し、約半数が合格していた。そこで、鳥羽高校でも国公立大学への推薦・AO入試をもっと活用すべきではないか、と考えた。同校の成績上位の生徒の中には京都大などの難関国公立大学に合格する者も在籍して



松林正嗣先生



曽根りか先生

いるが、多数を占める中・下位層の生徒は自分の志望を叶えるために教員の助けを必要としている。最近の多様な大学入試の情報を集め研究し活用すれば、そうした生徒の合格可能性を広げられると考えたのだ。

大学研究と情報収集の中心的役割を担ったのも特進部である。情報収集・研究の範囲は、入試制度、入試問題だけでなく、設置学部・学科の特徴や、さらには大学卒業後の就職先にまで及んだ。また、研究の対象とする国公立大学の数も増やした。その甲斐もあって、2011年3月卒業生が25校の国公立大学に進学したのに対し、2012年3月卒業生は最終的には32校の国公立大学へと進学した。

推薦・AO入試に適性のある生徒を見出し 多くの教員でとことん面倒を見る

2011年度に進めた取り組みを具体的に見ていく。まず年度初めに、3年生の進学希望者全員を対象とした推薦・AO入試に関する説明会を実施した。ところが「生徒から希望を募ったのですが、思ったほど人数が集まりません。教員が推薦・AO入試に向いていると考えた生徒の手が上がらなかったことは残念でした。そこで担任に働きかけ、適性のある生徒の掘り起こしを依頼したのです」(松林先生)。担任は受け持ちクラスの生徒の中から学業以外にも秀でた特技を持つ、プレゼンテーション能力が高い、考え方がしっかりしているなど、成績にこだわらず適性があると感じた生徒に「チャレンジしてみてはどうか」と声をかけていった。色よい返事があると進路指導部に連絡し、その後は特進部が細かくフォローしていく。こうした活動の結果、最終的には前年度の倍の35名が国公立大学の推薦・AO入試に出願した。

推薦・AO入試希望者には、マンツーマンでの徹底した指導を心がけた。それぞれの生徒に志望理由書指導担当教員、面接指導担当教員、小論文指導担当教員をつけ、

複数の教員が「とことん面倒をみる」体制を整えたのである。特に面接指導は、担当教員が他の教員の空き時間を見つけては「みてやってください」と、依頼するやり取りがあちこちで繰り広げられた。中には、受験出発日の朝まで面接指導を行う姿もあった。

志望理由書は、2年次の12月から4ヵ月間、進学、就職希望にかかわらず、全員に書かせた。早い時期から手をつけたのは、「なぜその大学・その企業に進みたいのか」を時間をかけて導き出し、生徒の心の底にある気持ちに気づかせたかったからだ。

「実際、何度も書き直しをしているうちに、生徒は自分の気持ちを深く探るようになりました。この取り組みを経たからこそ、推薦・AO入試の対策をスムーズに進められた上に、安易に推薦・AO入試に流れることもなかったのだと思います」(松林先生)

推薦・AO入試は一般入試とはスケジュールも内容も全く異なるため、一般入試に向けた学習が不十分になるという懸念もあったが、推薦・AO入試が生徒たちに与えた好影響は見逃せない。

「不合格者は悔しい思いをし、初めて受験の厳しさを知り、考えの甘い自分に気づき、さらに大学に合格したいという思いを強めていったようです。不合格が発奮材料となって、一般入試へのチャレンジ精神を保ち続けた生徒が多数いました」(松林先生)

卒業すら危うかった生徒が国公立大学のAO入試を受験し、理系クラス内で合格一番乗りを決めた時には、成績下位の生徒であっても努力をすれば道が開けることを証明し、一般入試受験者を大いに励ましたという。

生徒指導を土台として受験指導に移行する

こうした試みが結果につながったのは、進路指導の基盤として徹底した生徒指導を行っているからだと松林先生は説明する。

「生徒指導の厳しさには定評がある」と高田副校長が語るように、同校では生徒が入学したらまず、挨拶する、身なりを整える、提出物の期限を守るなど、社会に出れば当たり前のことを身に着くまで「とことん指導」する。伝統行事の「集団行動」^(注)では全生徒が一糸乱れぬパフォーマンスを披露できるよう練習を繰り返す。集団のルールやその中にいる自分の役割、立場を確認し、規律を守ることの重要性を、あらゆる機会を通じて学び取ら

(注) 集団行動…集団で規律のある行動をとること。日本体育大学のパフォーマンスが有名。

せるのだ。こうした指導が根付いているからこそ、時期が来れば学年全体で受験指導にスムーズに移行できる。

授業や小テストにも「とことん指導」という姿勢が一貫している。課題は必ず提出するよう促し、小テストも合格点に届かなければ再テストを繰り返す。こうした教員の姿勢が、生徒にさまざまな刺激を与えてきた。卒業生の合格体験記には、「小テストほど面倒なものはない。しかし、小テストほど大事なものはない。知識を増やすのはもちろんのこと、勉強する癖をつける、自分に合った勉強の仕方・コツをつかむなどいいことがたくさんある」「『小』についてもテストはテスト。小テストに落ちると、直しや再テストで時間がとられて次の小テストの勉強ができず、また落としてしまうという悪循環を招く。寝る前少しでもいいから、小テストの勉強をするよう心がけた」(いずれも要約)、など、教員の姿勢が生徒の意識に大きく影響した記述が目を引く。「まじめにコツコツとやることが評価される。小さな成功体験を積み重ねていく。これらが大きな自信を生み、自己肯定感を高めていくのです」(松林先生)

教員が「とことん指導」することで、生徒たちも教員を信頼し、「学校に軸足を置いた」学習を行うようになっていた。進路指導室前の廊下に並べられている机は、放課後には自習する生徒で埋まり、教員に盛んに質問している。教員への信頼の土壌を築けているから、学習指導や受験指導に注力できるのだ。

学校に軸足を置いた学習が校内で根付いてきたことで、生徒の学力も伸びている。ここ数年、京都府の府立高校実力テストを見ると入学時の成績上位者数は変わっていないが、センター試験の得点上位層は増えてきているの



進路指導室前の自習机

<図表2>入学時の成績上位者数とセンター試験得点率

入学時～府立高校実力テスト結果～(累積数)

偏差値	2010年3月卒業生	2011年3月卒業生	2012年3月卒業生
70以上	0人	0人	0人
65以上	14人	23人	18人
60以上	83人	80人	62人

▼ ▼ ▼
3年後～大学入試センター試験得点率(900点満点)～(累積数)

90%以上		2人
85%以上		1人
80%以上	1人	5人
75%以上	3人	9人
70%以上	12人	21人

だ<図表2>。こうした低学年次からの取り組みも、合格実績の向上につながっている。

2010年度からは1・2年生を対象とした学習状況調査を開始し(2010年度は1年生のみ)、府立高校実力テストの結果と合わせて、学力の向上した生徒、伸び悩む生徒のそれぞれについて、共通した傾向の分析を行っている。今後はその結果を生かし、組織的で効果的な指導法を検討していく予定である。

京都府立鳥羽高等学校

◇所在地：京都市南区西九条大国町1

◇沿革：1900年 京都府第二中学校創立
1984年 開校
2000年 京二中・鳥羽高校創立100周年記念式典挙行

◇学級編成：[全日制] 普通科

2012年3月卒業生 (I類5クラス II類2クラス III類1クラス)
2012年4月現在 (I類5クラス II類3クラス III類1クラス)

◇生徒数：1,080名(男子564名 女子516名) 2012年8月現在

◇特色：部活動が盛んで、硬式野球部は京都二中時代に第1回全国中等学校優勝野球大会(甲子園大会の源流)に優勝して以来の強豪校で、第84回選抜高校野球大会にも出場した。2011年度はさまざまな部から全国大会に80名が出場し、29名が入賞を果たした。水球インターハイ3位、ウエイトリフティング全国高校女子個人優勝・団体2位、文化部では放送部がNHK杯全国放送コンテストに出場、など優秀な成績を修めた。

2010年度より京都府教育委員会の学力向上フロンティア校に指定され、「プロジェクトT O B A～論理的思考能力の育成～」を推進しており、その取り組みの一貫として「思考力コンテスト」を実施している。知識だけでは解けない知恵や工夫を問う問題で、全校生徒が学年を越えて思考力を競い合っている。

◇卒業生の進路：2012年3月卒業生 318名(8クラス)

・進学先：大学・短大進学者247名 専門学校等進学者38名

就職者17名 その他16名

・合格者の内訳(現役生、延数)：国公立大74名 私立大348名
短大31名